

8/3

限りある資源を大切に



福岡都市圏「水」キャンペーン2026

福岡都市圏では「水の週間（8月1日～7日）」にあわせて、福岡都市圏「水」キャンペーンを実施しています。限りある貴重な水資源の大切さを広く呼びかけるため、JR二日市駅で街頭啓発活動を行いました。当日は平井市長をはじめ、市職員や山神水道企業団の職員などが「水を大切にしましょう」と呼びかけながら、啓発物品を配布しました。



一人ひとりに声をかけながら手渡しました

7/29

ふれあいの場として期待



バスケットゴール寄贈式

御笠コミュニティセンターのグラウンドに、ライジングゼファーフクオカからバスケットゴールが寄贈され、式にはおよそ50人が出席しました。式典後、子どもたちは、ライジングゼファーフクオカの寒竹 隼人選手にシュート練習方法などを教えてもらい、特別な思い出をつくりました。寒竹選手は「この場所が子どもたちの健康推進と地域のふれあいの場になればうれしいです」と話していました。



ゴールの支柱には、寒竹選手のサインがあります

8/5

白ごろの練習の成果が結果に



国民スポーツ大会で優勝・3位入賞

5月に開催された「青の煌めき青森国スポ第30回国民スポーツ大会」において、大道塾筑紫野支部、筑紫野南支部所属の市内小・中学校に通う6人が優秀な成績を修めたことを平井市長に報告しました。空道は大道塾が創設し、打撃技、投げ技、寝技などの攻撃が認められる総合武道です。選手たちは「練習の成果を出せるように、最後まで全力で臨みました」と話してくれました。



それぞれの階級で優勝や3位入賞を果たしました

8/2

平和と命の尊さを伝える



山家地区忠霊塔清掃

山家地区の遺族会では、年に3回忠霊塔の清掃を行っています。今回は、自衛隊退職者組織の隊友会も参加し、およそ40人が朝から作業にあたりました。参加した人は「戦死した祖父は30代でした。大切な命が失われたことを忘れない」と話しました。戦後から長く続けている清掃活動ですが、今は孫の世代が中心となりつつあります。地域で支えあって平和の尊さを伝え、顕彰活動を続けていきます。



昔は塔の前で食事をし、亡き家族をしのぶこともありました

8/19

子どもたちの読書の未来を語り合う

読み聞かせボランティア団体とまちづくり座談会を開催

子どもの読書活動をテーマに、読み聞かせボランティア6団体とまちづくり座談会を開催しました。読み聞かせの機会の確保や、活動を支える人の育成、保護者への啓発などについて活発に意見が交わされました。子どもたちが幼少期から本に親しみ、読書を楽しむ環境づくりに向け、ボランティア団体と学校、行政の連携について考える機会となりました。

まちづくり
座談会を
開催しました



▶まちづくり座談会の内容は、市ホームページでも紹介しています。



市ではブックスタートやセカンドブックで絵本のプレゼントとボランティア団体による読みきかせを実施しています



8/8

戦災の記憶を
次の世代に

8・8 筑紫平和シンボル行事～継承の集い～

筑紫公民館で8・8 筑紫平和シンボル行事～継承の集い～が行われ、戦争の悲惨さと次の世代へ伝える大切さを再確認しました。旧筑紫村では、昭和20年8月8日に米軍機による西鉄筑紫駅銃撃があり、多くの人が犠牲になりました。式典後、旧筑紫駅待合所「筑紫平和祈念館」に下見保育所の子どもたちが平和への願いを込めて折った千羽鶴が納められ、集まった人たちが銃撃の犠牲者を追悼しました。



平和のシンボルとして継承される筑紫平和祈念館

8/6

命と人権を
考えるつどい

平和のための映画フェスタin永岡

永岡隣保館では、映画の上映を通して平和について考える場をつくっています。第3回となる今回は、映画「対馬丸ーさようなら沖縄ー」を上映しました。戦争によって奪われた命や、平和を築くために努力し続けることの大切さについて会場全体で考えました。また、未来を担う子どもたちのつどいを通して、人とのつながりの大切さを考える機会となりました。



同じ思いや願いはきっと未来につながります